

## 安政東海地震・安政南海地震



\* 毛利家文庫29風説41「美々婦久路」

### 解説

1854（嘉永7・安政元）年，駿河湾・遠州灘・熊野灘の海底を震源域として推定マグニチュード8.4の巨大地震が起こり（安政東海地震），つづけて，約30時間後には紀伊水道から四国沖の海底を震源域とする巨大な地震が起こりました（安政南海地震）。これらは南海トラフを震源域とした地震（南海トラフ地震）と考えられています。南海トラフ地震は概ね100～150年間隔で繰り返し発生しており，安政のものは1707（宝永4）年の地震に続くものとされています。1946（昭和21）年に南西日本一帯で起こった南海地震もこれにあたります。

写真は1854年の地震の近畿以東の状況を記した木版画です。燃え盛る街並みや津波で激しく揺れ動く船の様子が生々しく描かれています。

山口県内でも，この地震の記録が多く残されています。それによると，高札場の玉垣の破損，石灯籠の倒壊，干拓地の土手の破損，瀬戸内海沿岸では液状化現象が起きています。さらに180cmほどの津波も報告されています。

\* 当館では平成25年度に「山口県災害記一過去の記録に学ぶー」をテーマにした第8回アーカイブズウィークを開催し，地震・台風・高潮・水害・土砂災害など当館の記録に残る災害を紹介しました。展示解説資料はこちら。[http://archives.pref.yamaguchi.lg.jp/user\\_data/upload/File/pdf/aw2013ex.pdf](http://archives.pref.yamaguchi.lg.jp/user_data/upload/File/pdf/aw2013ex.pdf)